

# 多様な需要 グッズも続々

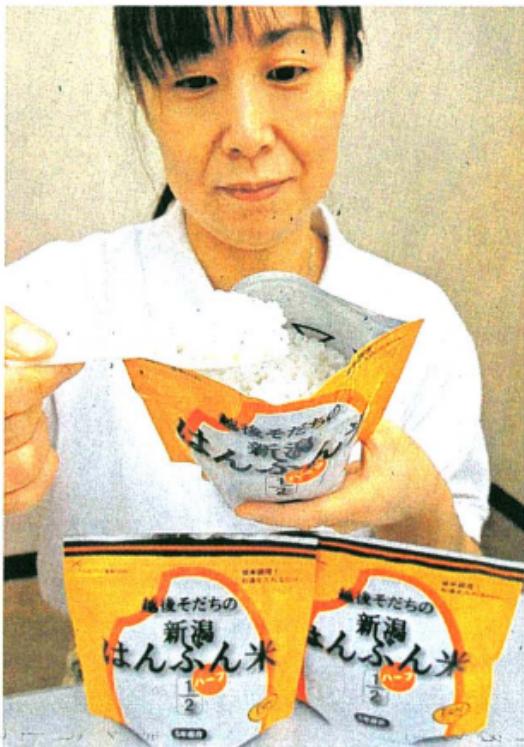
## 被災を機に 新商品開発

県内企業

病人用非常食・光る手すり…

中越地震を機に、災害関連商品の開発に力を入れる企業が増えている。県内企業の新商品開発を支援する「にいがた産業創造機構」は二〇〇五年に創設。業種を超えた横の連携で新しい商品開発を試みる一方、首都圏で展示会を開き全国へもPRした。

現在、防災関連の商品開発に取り組む県内企業は十社を超え、三十近い商品が生まれた。非常食のほか、避難所でのプライバシーを確保する紙



パックに湯を注ぎ、封をして約15分。温かく柔らかい「ご飯」が出来上がる「新潟はんぶん米」=長岡市脇川新田町のエコ・ライス新潟

年に「防災・救災産業研究会」を創設。業種を超えた横の連携で新しい商品開発を試みる一方、首都圏で展示会を開き全国へもPRした。  
製造間仕切り、停電時に光る」EDを用いた手すりなどが開発された。  
「タンパク、カリウム、リンの量を通常のコメの約半分に抑え、独自の製法で風味を維持。一袋三百三十円(税込み)。九月までに一万三千パックが売れた。

同機構は「防災への関心の高まりを背景に、今後も開発に取り組む社は増える」とみている。

「イス新潟(長岡市)は、人工透析に通う従業員の被災経験などを基に、タンパク質の摂取が制限されている人向けの非常食「新潟はんぶん米」を開発。九月に販売を開始した。